

キリストの光 光のキリスト

主の降誕 12月25日

(ルカ 2・1—14)

人は食べて生きる。食べ物
がなければ生きていけない。
生きるために人は食べる。

今、その食べ物がない。
生きるための食べ物がない。

たらしたり、命の危険の中に
人を置く。自然の食べ物を人
が変える。勝手に、人間の都
合のいいように変える。その
結果、病が、死が訪れる。数
多くの添加物が食べ物に加え
られ、時として毒が体内に入
る。知らないうちに、または、
意図的に…。偽物が口に入
り、人は本物の味を忘れてし
まう。

聖書の創造物語。「…主な

る神は、見るからに好まし
く、食べるに良いものをもた

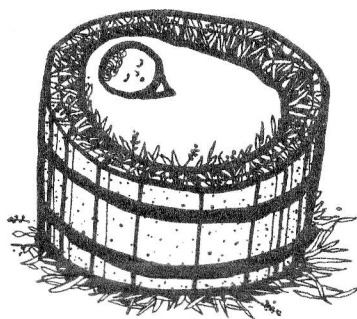
人間の食ベ者

らすあらゆる木を地に生えい
でさせ、また園の中央には、
命の木と善悪の知識の木を
生えいでさせられた。…主な
る神は人に命じて言われた。
園のすべての木から取って食
べなさい。ただし、善悪の知
識の木からは、決して食べて
はならない。食べると必ず死
んでしまう」(『創世記』一章
参照)。人は生きるために食
べるのに、人は食べて死ぬ。

善悪の知識は神から与えら
れるもの。決して食べてはな
らないのに、食べると死ぬと
教えられているのにそれに手
をつけ、食べてしまう。生き
る知恵を、死なない知恵を与
えられているのに、それなの

に、人は自分勝手に善悪を決
めてしまう。自分の都合のい
ように真理を嘘にすり替え
る。その結果…死。

この死から人を救うために



神は「救う者」を贈ってくだ
さった。その方は「主」と呼ば
れる。人生の柱となる新し
い木。命を再び与える命の
木。人生の主となる方。この

方を「救い主」と呼ぶ。

生まれたばかりの子は布にくるまれて飼ひ葉桶に寝かされた。

この子は成長し、人々に生きる術を伝える。自らの生き方を通して、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と聖書に書かれていゝる。成長したこの子は「与ゑる生き方」を生き抜く。死の前夜には弟子たちと最後の食事を共にし、その席でパンとぶどう酒を自らの体といゝ、弟子たちに与ゑる。「わたしは天から降つて来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生

きる」と彼は言う。そうして十字架の木に付けられて死んでいく。木の上で、自分を与ゑ尽くす。木によつて命を失つた人間は、木によつて命を再び得る。

飼ひ葉桶に寝かされた子。この飼ひ葉桶が救ひ主のしるし。飼ひ葉桶は家畜のえさを入れる箱。家畜は飼ひ葉桶のえさを食べて生きる。人はそこにゐる子、救ひ主を食べて生きる。救ひ主は人を生かす食べ者。人はこの方を食べて生きる。これが救ひ主の「しるし」。

わたしたちを「救う者」は人間の食べ者となられた。

(山元眞||福岡教区司祭/カット||高崎紀子)